

平成 27 年度町政懇談会議事録

- 1 日 時 平成 27 年 1 月 4 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 00
- 2 場 所 黒磯公民館 (那須塩原市)
- 3 出席者 伊澤町長、半澤副町長、武内総括参事、平岩復興推進課長、
猪狩産業建設課長、松本住民生活課長、志賀秘書広報課長、
- 4 町民出席者 7 人

5 町長あいさつ概要

○町長就任 (平成 25 年 3 月) 以降の町の状況、取組みを説明。

・平成 25 年 3 月、区域再編。3 月 16 日に 4 % の避難解除準備区域の両竹、浜野地区住民と懇談。4 月 6 日に再度、両竹・浜野の住民との懇談。賠償の取り組みができないことを話し、協力をするという話をいただき、区域再編ができた。精神的な賠償に差が無くなった。

・平成 25 年 6 月、いわき事務所を開設。

・旧騎西高校の避難所を閉鎖し、平成 25 年 12 月 27 日に全員退去、翌年 3 月に埼玉県へ施設返還。

・避難所に住んでいた町民への借り上げ住宅の確保。日赤の家電セットはすでに終わっていたが、関西の寄付者のご厚意により 3 点セットを購入し、あとは中古品で対応し、配付することができた。

・平成 26 年 4 月より幼稚園、小学校、中学校の学校再開。8/24 仮設校舎落成式を実施。開校当初は 11 名であったが、現在 21 名の児童生徒が在籍。少人数、ICT 教育が理解されたのではないかと。来年度はさらに人数が増えるときいている。

○町内の復興の取組みについて

・復興 IG については 6 月 12 日に太田前国土交通大臣より連結許可申請が下りたところ。

・復興祈念公園については 4 月 27 日に福島県が双葉町、浪江町の沿岸部 (両竹・浜野地区) に設置することを決定。

・双葉町復興まちづくり長期ビジョンを今年 3 月に策定した。現在の検討状況は、3 つの部会で検討し、来年 1 月に頃には委員会の提言がとりまとめられる予定。

○中間貯蔵施設について

・試験輸送が開始。

○除染について

・両竹・浜野地区の本格除染が開始され、来年 3 月に完了予定。双葉駅周辺の面的除染を希望している。

○一時帰宅時の休憩施設について

・除染請負業者の現場事務所がある中野地区に休憩所が設置。双葉駅隣のコミュニティセンター内にも一時立ち入りの休憩所を設置する。来年秋頃には休憩所を開設。

○東京電力賠償について

・町民の被害実態に沿った迅速・確実・十分な賠償の実施を求めている。

○復興公営住宅について

・9月末現在で107世帯、172名の町民の入居が決定し、すでに87世帯、139名が入居している。いわき市勿来酒井地区に建設予定の住宅は、平成29年度後期の入居開始との報告を受けている。

○「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」について

…配付資料（概要版）により平岩復興推進課長から説明

○「双葉町内片付けごみの回収、町内の防犯防火」について

…松本生活支援課長から説明

6 懇談会概要

（男性）

長期ビジョンに共同墓地を整備すると書かれているが、新たに造るのか。

（伊澤町長）

共同墓地については、津波で流された両竹・浜野地区の墓地、中間貯蔵施設のエリアに係る墓地の対応として整備する。また高線量地区の方も町内での移動であれば対応できる共同墓地の土地を押さえている。

（男性）

自分の家の墓地は柿ノ木平にあるが、周辺の線量が60 μ という高線量である。兄弟からもお墓を持って来たらといわれるが、お墓を造ってからまだいくらか経っていない。300万円くらいかかっているのに、東京電力では移転する場合最高150万円しか出さないのもまだそのままにしてある。共同墓地ができれば移動は可能か。

（松本住民生活課長）

お墓を移動するのもにも改葬手続きが必要である。墓地管理者から許可をもらって移動し、前の墓地を更地にしなければならない。賠償のお金で改葬となると更地にする費用も発生するのでお金が足りない。また、線量が持ち出し基準をオーバーすると持ち出せない。石屋さんの話を聞くと、墓石の処分も難しい状況である。

（伊澤町長）

今後、対応を色々協議していきたい。高線量地区の町内の移動は認めてもらわないとお墓参りも出来ない状況になる。その辺は交渉の仕方だと思っている。

（男性）

お墓の修理はしていないが、ひっくり返ったのを直してもらっただけで、その請求もしていない。1回請求するとあとは請求できないと聞いている。それもおかしい話である。共同墓地に移動できるならしたいと思っている。

（伊澤町長）

ケースバイケースで特殊性を考え柔軟な対応をしてもらわないとならない。町としても働きかけていく考えでいる。

(男性)

家の中でも線量が高くてゴミ出しも大変である。動物が入ってガチャガチャになっている。あれを全部やれというのは無理な話である。できるなら東電に義務でやってもらいたい。ゴミ出しは建物の被災状況を見ながら立ち会いのもとでやるのか。

家の中のゴミの量が多くて歩けないほどである。まして思い出があって片付けられない。関係ない東電の職員がやった方がよい。それだけ原子力の事故が大変だということを東電にわかってもらいたい。取り返しがつかない。今、悩ましいのはゴミとお墓の問題である。

(住民生活課長) ゴミと家屋調査は別である。

(女性)

ゴミ出しについて、電気も水もないところでの作業やこれから冬になると道路も凍結するし、個人的な事情で期間内に行けないので、期限を延長してほしい。

(松本住民生活課長)

家庭内の片付けゴミは取りあえず来年の3月までを想定している。ごみの回収状況を踏まえ、4月以降の片付けゴミについては改めて連絡することになっている。延長についてのご意見は、環境省に報告したい。

(女性)

浪江町は東電の人が来てベッドを壊したり、ゴミを片付けたりしてくれたと聞いたが、双葉町でもやってもらえるのか。

(松本住民生活課長)

各市町村で事情が違う。避難指示解除準備区域ではゴミの片付けが始まったが、双葉町の場合は両竹・浜野地区では除染計画ができたことから受付センターに申し込まれた方から訪問回収が行われた。その他の地区は、仮置き場がようやくできたことから片付けゴミが始まったところである。帰還困難区域でも除染計画が決定すれば訪問回収が実施できる。

(男性)

家に車が3台とバイクもまだある。どうすればいいのか。

(松本住民生活課長)

福島県内11市町村が環境大臣から汚染廃棄物対策地域と指定されており、すべての廃棄物については、対策地域廃棄物として処理責任を国が責任を担う。今後、国が計画を立て、同意いただければ回収が始まる。96%についてもようやく片付けゴミが始まったところである。今後、粗大ゴミや車、家の解体についてもすべて国がやる。

(男性)

家電ゴミとかも出せるようになるのか。

(松本住民生活課長)

そのようになる。家庭の片づけゴミから始まる。浪江、富岡町も片付けゴミから始まってそのステップを踏んでいる。

(伊澤町長)

帰還困難区域というしぼりがある。戻るのが難しいので手を付けないということを安に言っている。前根本復興大臣が大熊双葉ふるさと構想の中で、帰還困難区域であっても良いということになった。家庭内の片付けゴミも町で土地を確保したからいいよという話である。

ガスボンベや石油、ガソリンなど危険なものが町内にはたくさんある。何度も申し入れしている。96%が帰還困難区域の双葉町は本当に難しい状況である。家庭内ゴミも町が地権者の人に協力してもらって土地を確保したので回収できるようになった。

(男性)

ゴミの中には個人情報などもあるので大変だと思う。ただのゴミではない。

(伊澤町長)

新山、鴻草線、(旧国道)に関しても国の方で倒壊家屋を撤去して、除染を始めることになった。今年度中にやるということである。平成28年3月末には終わる。

(女性)

次の区域の線引きが変わる予定はいつごろか。

(伊澤町長)

見直しということでは、平成29年3月になっているが、双葉町の状況で見直しをかけて、あと2年経っても町に戻って生活できない。町としては戻って生活できないのに判断には踏み込めない。

(女性)

線量だけでは決めてほしくない。

(女性)

医療費や高速道路の無料は来年どうなるのか。

(伊澤町長)

年度、年度の前で決まるので、申し入れをしているが、年をまたがないと判断しない。1年ごとの延長である。もちろん要望活動はしているが、まだ何とも言えない状況である。双葉町民は国が避難命令を出して避難しているわけであり、避難指示の解除を国の責任でしてもらうべき。継続は当たり前と思っている。町村会でも毎年要望を行

っているが双葉郡でも差が出ている。国の判断が読めない。双葉町に関しては特殊事情ということで継続が当たり前と思っている。

(女性)

双葉町はよその町とは違うということを考えてやってほしい。

(男性)

国に要望を出す場合も単独ではなく浪江や大熊、富岡と一緒に相談してやってもらいたい。共同歩調でできないものか。

(伊澤町長)

やってはいるが、ただ温度差がある。双葉と大熊の状況は似ている。

(女性)

大熊町には大川原地区に施設が色々できている。

(伊澤町長)

それ以外のところは大熊町も厳しい状況である。大野駅周辺はかなり線量が高い。

(男性)

自分が生きている内は戻れないだろうから。お墓だけでもなんとかしたい。

(伊澤町長)

決めつけないでください。線量は自然減衰で落ちている。そこを本格除染すると使える土地はある。山田、石熊地区は時間の経過が必要であるが、戻れるところから戻って、除染をして住める環境を作って少しずつエリアを広げていく。

(女性)

復興産業拠点の利用についての中小企業向けのアンケートについてどういう結果がでたのか。

(平岩復興推進課長)

中野地区の復興産業拠点の事業所ニーズ調査を商工会の工業部会の方を対象に実施した。締め切りは先月中旬ということであったが、まだ検討中の事業者もあったので、取りまとめ中である。今回のアンケートについては、復興拠点の基本構想を今年度まとめる上でどの程度の規模が必要か重要なデータになるので、今月中旬までには取りまとめたい。

(女性)

中間貯蔵施設について、最初、環境省からお伺いしたいとの電話がかかってきて、その後環境省から2人、司法書士か行政書士かはわからないが1人、あと不動産鑑定士の4人が避難先に来て、調査をすることに対しての署名をもらいたいということだっ

た。他の人にも聞いたら署名をしたということだったので、調査するまではいいでしょうということにした。次に「復興支援事務所いわきの〇〇です」と名乗って電話がかかってきた。中間貯蔵施設の話だった。前置きもなく「調査をさせてください。」ということで、前に倉庫のある部分の調査に対して署名をしたのだが、都合が悪くて立ち会いができないことを話すと、倉庫の場合は、立ち会いは不要だと言われた。でも鍵がかかっているし、前に環境省が4人で来たときにはコンセント一つずつ立会いのもとで確認するということがあったのに、全然関係のない人に丸投げしているような感じだった。調査に来るのでも環境省の人が来るべきではないのか。

(伊澤町長)

環境省が色々な業者に委託しているのではないか。

(女性)

環境省の問題ならば、環境省が対応すべきではないのか。いわきの電話番号だった。フリーダイヤルではなかった。夫に了承を得たので調査しますということだったが夫は了解していないということだった。番号は0246-23-6865

(伊澤町長)

こちらで調べてみる。

<ネットで検索>

一般社団法人 日本補償コンサルタント復興支援協会、
本部. ○本部事務所…いわき事務所 福島県いわき市平字作町 1-8-1 作町エレガンス
2F 〒970-8026 電話 0246-23-6865 F A X 0246-23-6866

(女性)

環境省が窓口なのだから、環境省の人に来てほしい。倉庫も山も会社も一気に見ようとしていた。健康に自信がないので、一気にはできないと答えた。

(伊澤町長)

そのへんのつながりができていない。前段の説明ができていない。今ご指摘のあったことについては、環境省には、役場の方から委託した業者に話をつないで、よく説明をしてほしいと話しておく。他の地権者の人からも一回連絡が来て、なしのつぶてだというような話は出ている。

(半澤副町長)

整理してみると、環境省に調べさせたうえでお詫び方々環境省に電話を入れさせるのが筋だと考える。委託をさせるところに前置きの説明もなく、環境省との関係がわからないのでは不審感をもってしまうので、統一した対応をさせるようにしっかり整理させたい。地権者の理解を得るのが大前提である。

(伊澤町長)

環境省には厳しく指摘したい。

(女性)

一時帰宅にも行きたくない。何でもネガティブに考えてしまう。落ち着いてくれば来るほど悪いことばかり思い出されてしまう。いやなこともないのだが、精神的に落ち込む。先週、那須山に登ったら、富岡のスポーツクラブでいわきと郡山の人が交流をしているのに会った。私もふれあいクラブで山歩きをしていたので、懐かしかった。久しぶりにタブレットを開いたらその日に双葉でもトレッキングが行われていた。募集しているのも知らなかった。またがっかりして忘れ去られているように考えてしまう。情報が届かない。離れてしまうとつながらない。遠く離れていると帰るのにだって時間がかかる。この先どうなるのか不安。

(男性)

昼間はいいが、夜になると色々考えて余計に不安になる。

(女性)

埼玉の方から健康調査で訪問に来て、聞き取りはしていったが、その結果はどうなったのか。なんだったのか。

(半澤副町長)

埼玉支所が加須市近辺しか訪問できない中で、今年度から埼玉支所で、できる限り関東圏にいる町民の方がどこに住んでどのような生活をしているのか、町に対してや健康に対しての聞き取りをしている。結果は協議させてもらっている。評価をするのではない。問題はないので断られることが多いようだ。栃木、群馬の方はある程度自立して生活できる人が生活しているので、町からの情報は欲しいが、直接的な接触はさけたいとの報告があった。

今も復興町民委員会で議論をしているが、町民の絆の維持、コミュニティの維持の部分をどの程度やっていかなければならないのかを検討している。

トレッキングについては、今年から始まったので、周知する期間が短かったという話は聞いている。来年以降は広報紙とかで周知していきたい。これからはボーリングも予定されている。

以上